

## 令和5年度第6回「知事と一緒に生き活きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：美しく豊かな瀬戸内海を次世代へ
- 2 日時：令和6年1月11日（木） 13:50～15:10
- 3 場所：ふれあい交流館「サンパレア」多目的室（浅口市寄島町 16091-23）
- 4 参加者：海ごみ等の回収やアマモ場再生、環境教育に関する活動を行う団体や漁業者の方など6名

### 5 知事挨拶

- ・近年海ごみについての機運が高まってきた。私自身海ごみ問題への思いが昔から強かった割にあまり動けていなかった悔しさ、申し訳なさもあり、今日は海に携わっている皆さんからしっかりお話を伺い、現状や必要な取組などについてお話をお聞きしたい。

### 6 発言内容等

#### 【自己紹介及び活動の状況など】

- ・備前市にある渚の交番「ひなせうみラボ」の運営をしている。若い世代を中心に海洋学習や海に関するワークショップや、離島のごみ拾いイベントを行っている。目の届かない場所にごみがかかり溜まっていて、このごみをどのように継続的に処理していくかが今後の課題だと思っている。
- ・山陽学園地歴部の顧問をしている。地歴部では中高生が主体となって、既に流出してしまっているごみの回収と、将来海ごみになってしまうごみの発生抑制をしようという啓発活動との2本の柱で活動している。最近は海ごみに関心の低い人でも参加してもらえるよう、街中のごみを誰でも投稿できるアプリを生徒自身が作った。このような活動に携わった生徒たちは卒業後も社会の中心になってくれるかなと思っている。
- ・寄島で漁師をしており、春夏はサワラやマナガツオの流し網漁、冬場は底びき網漁をしている。始めたときは素人感覚で、底びきをやったら魚ばかりとれると思っていたが、実際にはごみの方が多く、ごみの中から魚が出てくる感じだった。それがきっかけで、ごみを持って帰らないといけないと思い、20年ちょっとの間、ごみの回収を続けている。
- ・夫と、3人の子と寄島で暮らしている。夫は漁業者で、自分は事務の仕事や手伝いをしてサポートしている。旬の魚をテーマにしたテレビ番組にも声をかけてもらって出演し、旬の魚のレシピを紹介した。
- ・おかやま山陽高校の2年生で、授業で地域の課題解決をしようと調べていたところ、クロダイによる牡蠣の食害を知り、この課題解決に向けた取組を行っている。
- ・公益財団法人水島地域環境再生財団で海ごみに係る様々な事業に携わっている。自治体からの委託を受けて漂着ごみや河川ごみの調査を行うほか、環境学習や倉敷市内の清掃活動、漁業体験会なども行っている。

#### 【海ごみについて】

- ・漂着ごみや河川ごみの調査をするなかで、海ごみは陸や河川から流れ込んでくるごみを中心であることを体感しており、内陸部、河川で効果的に回収していく必要が

- あると感じている。いかに流出する前に陸域で回収できるかが大切だ。
- ・海底ごみは漁業者たちが頑張って回収して少なくなってきたが、西日本豪雨の後から、大きいごみが多少増えてきている。毎日同じような所を底びきしても、埋まっているごみが出てくる。(底びき網の爪が届かない深さの) 底にはもっと大きいごみが埋まっていると思う。
  - ・海底ごみにプラスチックなど軽いごみも増えているので、釣り人や漁業者など海を利用している人が気をつけないといけないと思う。最近では、ハンゲル文字のついたFAX本体があったり、今日の午前中に見つけたのは賞味期限切れのハムだったりした。
  - ・やはり、捨てるのが当たり前と思っている人の意識を変えることが一番だと思う。子どもの頃から環境学習をして、拾うのが当たり前ということを広めていくのがよいと思う。
  - ・海底ごみの回収について、漁業者が拾うのがもっと当たり前になって欲しい。
  - ・今、漁業をしていて、ごみによって網が破れたり、道具が曲がったという部分の補償がない。例えば海底ごみの回収をしている漁業者には補償するなどできないか。
  - ・年に数回は大きなごみがある。今日はなかったところに、明日は大きなごみがあるかもしれない。漁をしているとそういう不安がある。
  - ・ごみに対する意識を変えていくには、子どもの頃からの体験が大切だと思う。ボランティアでごみの回収を体験するだけでなく、漁業の体験や、美味しい魚を食べたり、海で釣りをして遊んだり、色々なことを体験して、それがプラスアルファとなっていくことが大事だと思う。
  - ・今の漁業者は、代々家業として漁師を継いで、上の人たちに習って、普通に底びき漁をしたら魚だけを獲ってごみは捨ててしまう。それが当たり前になっているので、それを変えていくことが一番だと思う。細かいごみまで拾わなくても、せめて大きいごみくらいは持って帰るのが当たり前になって欲しい。
  - ・瀬戸内海を航行する大型船からのごみのポイ捨て対策も必要で、現在何も対策できていない。
  - ・漁業者がごみを持ち帰るのも体力がいるので、若い漁業者を増やすことも大切だ。
  - ・河川ごみの調査をしていると、プラスチックの生産量と河川ごみの量は比例しているように感じる。プラスチックを生産する段階からごみが出ないようにすることも大切だと思う。
  - ・車のドライバーがインター等でごみをポイ捨てすることも多いが、企業がトラック業者等と連携し、トラックなどからごみを引き取るような連携をしているところもあると聞いている。
  - ・海ごみに対するマイナスイメージを変えていきたい。地歴部の生徒が作ったアプリの利用者はほとんどが10代であり、利用者にやりがいや楽しさを提供できるような企画を学生が中心となって実施し、誰にでも解決者になることができるんだということが、学生に伝わればよいなと考えている。

### 【瀬戸内海を守るためのアイデアなどについて】

- ・子どもたちには、瀬戸内海で獲れた新鮮で体に良い魚を食べさせたいと思い、どのように料理したら美味しく食べられるか、どうしたら好きになってくれるかを考えながら料理してきた。

- ・漁から帰った夫の話聞いて、最近、瀬戸内海環境が変化して、魚も減り、漁獲量も減っているということを知った。これは自分たちの生活にも関係してくることなので、海が豊かになるよう、海の栄養を増やして欲しいと思う。
- ・クロダイによる牡蠣の食害について調べる中で、クロダイはおいしくないから売れないということで、獲れてもリリースされることが多いため、調理すればおいしくなることを知ってもらうため缶詰を開発した。  
缶詰のアイデアコンテスト「LOCAL FISH CAN グランプリ」でのベストストーリー賞や「岡山イノベーションコンテスト」での大賞を受賞した。  
開発したクロダイの缶詰を、今後商品化する方向で、県の水産課などと協力して開発を進めていきたいと考えている。
- ・寄島の魚を生け簀に入れた釣り堀事業を企画している。クロダイは釣りやすく、料理もしやすく、白身魚なので味付けが色々できる。ただ、イメージが良くないのでどう知ってもらうかが課題だ。

### 【知事まとめ】

- ・皆さんが行っていることをきっかけに、県民に海に親しんでもらったり、魚がおいしいと知ってもらったり、新たなビジネスや取組に活かしたり広がり期待している。
- ・川ごみ、海ごみについては今後数年間でずっと良くして行って、岡山県や瀬戸内海は丘も、川も海もすべて綺麗だという地域にしていきたい。